

研究室訪問（２年生対象） ～大学での研究活動をより具体的に知る～

12月17日（木）の授業終了後、連携協定を結んでいる摂南大学を訪問しました。

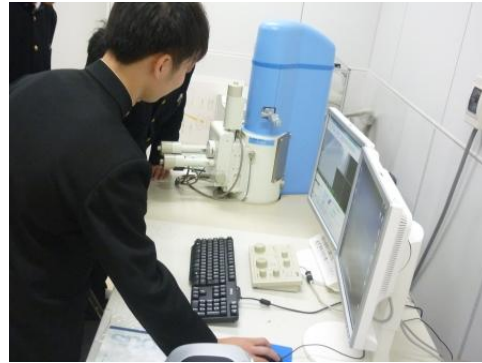
卒業研究の追い込みの「超・多忙な時期」にもかかわらず、将来の進路を特に現実的に考えている本校２年生の希望者だけに特別に時間を割いてもらいました。もちろん、淀工工学系だけの訪問です。

（１）理工学部 機械工学科 辻野良二〔環境機械工学〕研究室

最初に、機械工学科の辻野先生の研究室を訪れました。

研究室に到着すると、辻野先生と学部生・院生の方々には非常に歓迎してもらえました。

研究内容の紹介から始まり、普段の研究（室）生活のことについて、とてもオープンにお話ししていただきました。実験室では、摩擦接合試験機や電子顕微鏡を見せてもらい、実際に引張試験を実演していただきました。



（２）理工学部 電気電子工学科 井上雅彦〔表面物性工学〕研究室

続いて電気電子工学科の井上先生の研究室を見せていただきました。

学生の皆さんが実際に国際学会で英語を使って発表している動画や、研究成果が現れた瞬間の動画を拝見しました。動画なので、難しさや喜びがとてもリアルで説得力がありました。

また、自分の研究内容について１人ずつ丁寧にお話していただき、「仲間と何かを成し遂げる」大切さを教えてもらいました。



生徒たちの感想（抜粋）

- 電子顕微鏡を使って、初めてものを見た。
 - （今回の訪問は）前回の訪問とは違う分野で、雰囲気は全く違った。
 - 新しい摩擦溶接の技術を考えたり、さらにその技術で溶接するための機械を企業と開発したりなど、自分が思っていた以上のことをやっていて驚いた。
 - 数学や物理は今のうちに少しでもやっておくほうが良いと思った。
 - 研究内容・生活の発表がすごく凝っていて、わかりやすかった。
 - 研究室の自由なところが見れたり、日常感が見えて参考になった。
-
- ひとりに1台パソコンがあるということに驚いた。
 - 電気電子工学科というので、オシロスコープなどで測定するだけだろうという偏見があったけれど、全く違って、色々なことが出来ることを知った。
 - 企業で不要になった装置を利用して、世界記録的な測定をしていることがすごいと思った。
 - 今まで機械にしか興味がなかったけれど、見学して自分が思っていた以上に気になるものがあり、少し視野が広がった。
 - 研究の幅広さにはとてもびっくりした。特に驚いたのは、ひとり一人のテーマ違うけれど、それを全員で取り組むところ。
 - 同じ大学なのに、研究室が違えば変わるんだと驚きました。